

行政・企業・地域住民と連携した瀬戸内海環境保全活動

(一財)広島県環境保健協会
地域活動支援センター地域支援課

1. はじめに

当協会は、昭和32年(1957)12月4日に住民組織である県内市町村公衆衛生推進協議会(以下、「公衛協」)が集い、任意団体で当協会の前身である「広島県地区衛生組織連合会」を設立して以来、コミュニティ(地域社会)における公衆衛生、環境保全の向上を目指し、県民の健康づくりと住みよい環境づくりを使命に活動を行っている。

これまで、公衛協と連携した瀬戸内海の環境保全に関する活動として、水域クリーン運動(1975年～)や生活排水浄化対策運動(1979年～)、ふるさとの水(海)辺教室(1984年～)、瀬戸内海の再生に向けた法整備に関する署名活動(2007年)、広島発・瀬戸内海美化大作戦(2011年～)など、時代に応じた環境保全活動に取り組んできた。

現在、地域住民のみならず、行政や企業とも連携しながら活動を展開しているので、その内容を紹介する。



広島発・瀬戸内海美化大作戦

2. 行政・企業・地域住民と連携した環境保全活動

2.1 行政(広島県)との連携事業

昨年度、広島県が海洋プラスチックごみ対策として立ち上げた「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム(通称:GSHIP)」に当協会も参画し、「プラスチックごみの清掃・回収」「情報の収集、発信、共有」に取り組んでいる。

清掃・回収の取り組みでは、グッズの提供や当協会発行の情報紙で紹介するなど、公衛協が実施する清掃活動を支援している。また、清掃活動の情報を収集し発信することで、他の GSHIP 参画団体・企業と清掃活動に関するマッチングを行うなど、広島県と密に連絡・調整を行いながら、海洋プラスチックごみ対策の実践に貢献している。



情報紙「環境と健康」

2.2 地元メディアとの連携事業

2020年1月に日本財団と(株)中国放送が立ち上げた「海洋ごみ問題ジブンゴト化プロジェクト in 広島」の実行委員長に当協会の佐藤理事長が就任し、広島県民に対する啓発活動を展開している。

「海洋ごみ問題ジブンゴト化プロジェクト in 広島」の目的は、広島の豊かな海を未来に残すため、県民全体で海洋ごみ問題を「ジブンゴト」とし、海への関心を高め、海が持つ多様性とその恩恵を理解し、行動を促すムーブメントを醸成することである。啓発として、①大型イベントとの連携、②広島プロスポーツチームとの連携、③プロジェクト訴求動画の制作、④瀬戸内オーシャンズ X 事業との連携がある。

このうち、③プロジェクト訴求動画の制作で、教材作成のための水中ドローンを使った動画の撮影を行ったり、④瀬戸内オーシャンズ X 事業との連携で、県内の小中学校における出前講座の実施や宮島での一斉清掃への参加などを行っている。



小学校での出前講座



小学生による清掃活動



宮島での一斉清掃

2.3 公衛協・地域住民との連携事業

これまで公衛協と連携して実施してきた環境づくり事業では、山～川～海のつながりを意識して海辺の地域はもちろん、山間部では水を育む源流として、川辺の地域では直接海につながる場所として、それぞれの地域で清掃活動や学習活動を展開している。

また、1984年から始まったふるさとの水辺教室事業を深化させ、学舎融合システムの構築を目指し、公衛協・小中学校・当協会の三者協働で、体験型の環境・健康学習へと発展させたスクールキャラバン事業を現在も継続して行っており、未来の人材育成に貢献している。



看板を掲げ
清掃活動を実施



川辺での水辺教室

2.4 独自事業

その他、当協会の背面に流れる天満川の清掃活動を行う「環保協前天満川クリーン作戦(2010年～)」や、当協会の4センターが交代制で週1回、天満川の左岸側の河川敷及び歩道の散乱ごみの回収に取り組む「天満川左岸美化清掃(2005年～)」、身近な自然に対する愛着を持つために、天満川付近に生息する生きものを観察する「天満川自然観察会(2011年～)」など、社会貢献活動を実施している。

これらの活動においては、当協会では生物調査に従事する職員や子どもたちへの学習活動に従事する職員等が講師を務めるなど、専門家集団としての知識や経験を発揮し、地域社会へ還元するよう取り組んでいる。



天満川
クリーン
作戦



天満川自然観察会

3. 今後の取り組み

瀬戸内海は、広島県民にとって大切な資源であり、憩いの場であり、宝である。

広島県民にとって重要な場所である瀬戸内海の実環境保全活動に、行政や企業、地域住民と密接に連携しながら、公衛協をはじめとしたコミュニティ組織活動の支援を通して、今後も積極的に取り組んでいきたい。

また、当協会の持つ高い専門性と豊富な経験を活かし、持続可能な社会づくりに寄与していきたい。